



幼稚園の懷舊を辿りて (六)

—神戸の續—

望 月 ぐ に

聖代明治の御代も思ひがけなく過ぎました。

聖上陛下はとことばにはおはしますものとのみ思ふて居りました私共は初めて非常な警異に打たれ無常の風はかゝる千古無比の聖帝にも及ぶものかと世のはかなさを痛切に味ひました。其少し前頃から私の心には何となき不安(自分の仕事に對して)と保育の價値を疑ひ始め、かうして毎日澤山の幼兒を預り、歌はせたり笑はせたり集めたり散らしたりして何の効果があるであらふか。幼稚園として効果はなく、家庭に放任して置くのと餘り違はないとしても夫だけならよいが、若し集めた爲に刺戟が多すぎるとか、子供が不注意になることが

あつて知らぬ間に子供を害したら何としやう。幸にして學校から小言は出ないし、出身兒童の學業の成績は比較的よいとの事ではありますが、夫が果して子供の性格の上にもよい影響を與へて居るのでありませうか。家庭からも信賴されて居るが夫は先生が可愛がつて下さるとか、間食をしないとか云ふ様なことで、表面からほめられて居ても私の内心の心配は却て見えないしられない處にありはしないかと、思へば思ふ程そら恐ろしく、子供が自由に嬉々として遊んで居るのを見れば自然にほゝゑられますが、保育室に這入つて一齊におけいこをして、あちらでもこちらでも「先生こう

く」といふ子供の有様には可愛想におもはれ、事々に解決がつかず、人知れぬ腦に煩悶しましたかゝる自信のない仕事に携はるよりも、家庭で御飯を炊いたり自分の子供の世話でもする方が罪がなくてよい。知らずにつくる罪、殊に人の子を害ふことがあるならば未來永劫まで恐ろしいと、幼稚園がイヤになつて參りましたので、退職の決心をして主人に其趣を語りました。主人は考へて、家の爲には退職して貰ふ方が都合であるけれども、その様な煩悶から退職することは面白くない幸友人に松本亦太郎と云ふ人があつて心理學の泰斗であるから一度相談して見るがよいとの事に、早速京都大學に松本先生（先生は東大へ御轉任の前でした）を訪ひ教を乞ひました。同行者は當時兵庫幼稚園長の榎本常子姉でありました。松本先生は私の煩悶を親切におき下さつておやさしく「夫はあなた方が研究が足りないからである。これ

から勉強したら幼児教育に自信が出来るであらふ先づ子供を研究して見るがよい」との御話に嬉しく、夫ならば私共を御指導下さる先生をお與へ下さいと御願ひ致しまして、始めて榎崎淺太郎先生を得ました。私共の喜びを何にたとへませう。大早に雲霓とはこの事で御座いました。飢えた者に食を與へられたやうに貧り食したのでしたけれども、先生はお忙しく、月に一二回しか神戸へお出で下さることが出来ませんでした。私共二人はこの結構な精神の糧を獨占することはしませんでした。神戸市保育會の事業として凡ての保母たちと共に學びました、榎崎先生は、先きに記しました明治四十五年六月の三市聯合保育會の時の倉橋先生の「幼児教育の新目標」と題する御演説（同先生著幼稚園雜草四〇七頁幼稚園の特色と云ふ題にて記されてあり）は眞に幼児教育の目標とすべき價値ある御意見だと仰せられました講義をし

て下さいました。且兒童心理を御教へ下さいまして、一々實驗の御指導に預りました。愚なる私共は一生懸命實驗をして居ましても。先生は御覽になつて、ドウモ態度がなつてゐない。そう云ふても其意味がわからないであらふと云ふて下さつたこともあります。兎にも角にも數年の久しき間出來るだけやつて見ました。夏休中かゝつて整理したものがだめになつたりして。現今楠幼稚園長をしてお出でになる山崎ときの姉と、涙を流さん斗り情なく思ふたこともあります。しかし少しづつ、五才六才の子供のことが判然として參りました。が私共の力足らず成績の見るべきものは少う御座いました。しかし先生の御導き下さる眞劍さは今以て骨に刻みつけられてあります。一例を挙げますれば、私共は種々の疑問を携へて夏の夜十時頃に京都の先生の御門を叩いたり、冬の朝六時のまだ暗きに行つたりして教を受けますのに、イツモ

先生はチャント早く起き、晚くいね、一々親切に懇々と説いて下さいました。時にはわざ／＼御下神の上保育の實際を御覽下さつて御批評を爲すつて下さいます。其御一言／＼は今以て金玉となつて腦裏に深く刻みつけられて居ります。併しながら先生は常に自學自訂をせよとおほせになりました、私が二年目位に一度づゝ保育の方針をかへますのを御覽になつて「まあやつて御見んさい」とのお言葉で、よいともわるいともいふて下さいませんから、私も變更する度に大元氣でやります。二年目位にはソロ／＼欠陥が見え始めますので又考へ直して三年目にはトウ／＼根本から覆しますと、先生はお笑ひになつて「よい事は残しよくない事を改めるがよいではないか」とおほせになります。私は氣分を新にし全く立て替へないと勇氣が出ませんといひ／＼、又新案をお話致します。先生相變らず「マアヤツテお見ンサイ」とおほ

せになります。かくて先生が東京高等師範學校の教授におなりになつて御上京遊ばしますまでに、私は現今行つて居ります方法に致しました。勿論體育については大正二年より倉橋檜崎兩先生の御説を堅く守りまして、今日迄も其方針を更えず、十數年の久しき山行きを實行して居ります。檜崎先生はどんなよい山行きでも、若し一度子供に怪我をさせる等の過ちあらば、折角のよい事が批難される様になるから氣を付けよとおほせ下さいましたので、細心の注意を致しますが、今日までたしいた怪我はありませんでしたことを感謝して居ります。何がなんでも幼時の教育は體育が一番で、これが出来れば他は自然に伴うて參ります。先年私の幼稚園の保母の松永とき子さんが、毎月子供に粘土を以て人の形をつくらせてゐました入園の初めははべチャンとした平面のものをつくつて居りました。三四ヶ月の後から其人型が立體

になつて立つ様になりました。其時其子供は病氣になつて一月休みましたが、次に出席して來ました時には又始めの通り平面の人をつくつてゐました。大人でも大病をしますれば字などは忘れて一寸思ひ出せないことがあります。子供の智識の發達は殊に甚しく後れる様に思はれますから、體育が大切なことは痛感せられます。疲勞が關係すると考へましたのは大正二三年頃の毎月の身體検査の表を見ますと、其頃大阪の園などでも私の方でも五月には體重が減じて居ましたので不思議に思ふて、子供が入園の爲に急に境遇の變化を起し其せいではないかと思ひ、注意して保育するうちに、近來は夫が普通の通り減じなくなりましたのは、保育の方法が自然に改良された結果でありませうと考へられます。此十四五年間、幾度も疲勞の研究をして見ましたが、子供に疲勞がないのか方法が良くないのか何も見出しませんでした。唯

林間保育(大正六年)の時午睡によつて直線の二等分の差が少しく少くなつたことを見出した斗りでした。明治四十年頃には机によつて一齊保育をしてゐましたが、其頃は三十人位の一組に三四人の脊柱の後屈などを見出し、黒板に姓名を記して注意をして矯正した事がありました。一齊保育を廢してからは殆ど脊柱の心配は無くなりました。毎月の身體検査は都會の子供の結核性を見出すことが度々出來ました。秋の三四ヶ月間體重の増さない子供を、縣立病院の小兒科醫長吉馴博士に願して親たちの知らない中に其原因を發見して戴き養生をすゝめて今日立派な青年になり働いて居るのを見ます時に私は嬉しくてたまりません。青年も挨拶して喜んでゐます。又九月に急に少しく脊柱が左に曲つた幼兒を發見して驚き、親にも注意して例の病院に送りましたが、何程御診察下さつても病氣を發見しません。これは不思議だとあ

つて種々調査の末、其子のズボンツリの右の方が強い爲であつたことを發見して下さつて治り、大に參考になりました。此の様な場合に私はよくまあ幼稚園をやめなかつたと喜んで居ます。躰方はモンテッソーリ流が一番効果があつたと思はれます。同女史の教育法は、明治四十五年倉橋先生が始めて神戸へお出で下さいました時始めて其名を承りましたが、先生もまだ悉しい報道が無いとお話でした。間もなく米國から善隣幼稚園へ同女史教育的器具の圖解が參りましたので夫を借りて寫し、倉橋先生を始め大阪の諸姉にも送りましたが、英語が良く出來ないのと、實物を見たことがありませんから判りにくい處もありました。其うち書物が輸入されましたので神戸女學院教授横川四十八先生に講義をして戴きました。大阪よりも多數の來會者があり、十數回熱心に御勉強になり大體其教育方法が會得されました。其影響でせう

一時モン女史の感覺練習は關西を風靡しました。

(京都は京大の先生方の教へをお受けになりました) 其後此感覺練習は低能兒か幼年兒には適當ですが、只今の幼稚園兒の様に五才六才の兒童には已に少し遅すぎることが知れまして只今では餘り用ひられませんが、其訓育の方法の巧妙さには感心の外なく、其爲に私は益を得ました。賞罰なしの教育が同女史の本旨ですが私は賞を用ひます。其精神を學んでからは子供の活潑は活潑でも、前の様にヤンチャで大困りすることが無くなりました。フレーベルの人の教育で保育の眞髓を學び、モン女史の教育で其取扱ひの方法を知るとは、子供を育てる者の進む一番近道でありませう。智識の教育では、多くの子供の中には精神年齢か暦の年齢に越えて居るのがあります、之を見ると早教育がして見たくありませんが、小學校の方が伴はないのと、若しやり損じた時には夫こそ大變だと

思ふ心配とで遂にようやくませんでした。しかし四月入園しまして五月になればモ一よく馴れますし、教育の方法を定めねばなりませんから、一日から調査を始めます。保姆は遊びながら毎日ひとり／＼に尋ねて見ます。(此事は前年悉しく記しましたから省略します) そして其子供の何が長所であるかを知りまして個性調査表をつくり、保姆は日案にしまして毎日指導すべき兒童の姓名を記し其短所のみを進める様に致します。目的以外の幼兒には充分にお遊びの各種を與へて自由に活動の出来る様にしますれば自然に發達して參ります。子供はうちからもえ出る自分の力で發達致しますので、實に結講であります。學年末の調査で標準又は其以上にまで發達してくれれば保育は勿論大成功ですし、私も大喜びで働き甲斐がある様に思はれます。此方法を實行しましてからは己に七八年になります。此方法の缺點は整頓に骨の折れることでありますが研究中で御座います。これで一先づ此稿を終ることに致します